

さて、いざ教えるとなると、一日に何字ぐらい教えたらいいのかと思われるでしょう。せっかく教えるのなら、つい一字でも多く……と思いがちになります。教育熱心なお母さんほど、こうしなければいけないと計画をたててしまいがちです。

しかし、一日一字でいいのです。もちろん子どもが興味を持てば、二字でも三字でもかまいませんが、基本的には一字ずつとってください。初めから、いつまでに何字と目標を立てる必要はないのです。

それよりも、子どもの興味をそらさずに、負担にならない程度で進めることが大切です。肝心なのは、何字教えるかではなくて毎日続けることです。

何ごとにも継続が大切です。とりあえずは一週間やってみて、子どもの様子をみます。それを十日、一か月と伸ばして、もっとも楽しんで、負担にならないでやれるペースをつかめばいいのです。三日坊主にならないよう、興味を失わないような工夫も必要でしょう。

こうして幼児が興味を持って続けられたとすると、後は放っておいてもどんどん覚えるようになります。親が教えようとしなくても、子どものほうから「この字は何て読むの？」と積極的に聞いてくるようになります。こ

うなったら、もう親が口出しをする必要はまったくありません。

就学前に、小学校で習う1000字近くを読めるようになっていれば、小学生向けの本はスラスラ読めます。教科書も読めるようになります。国語だけでなく、理科も算数も社会も、理解のしかたが違ってくるはずで、こう思って気長に継続することが、何より大切です。

ポイント:自分で考えさせる、自分の頭を使わせることの重要性を、今の教育は無視しています。知識を詰め込むやり方ですから、頭を使って考えたり推理したりする機会は失われていきます。したがってそういう力は少しも育ちません。